

Gastro-Health Now

認定特定非営利活動法人
日本胃がん予知・診断・治療研究機構

Certified Non Profitable Organization
Japan Research Foundation of Prediction,
Diagnosis and Therapy for Gastric Cancer (JRF PDT GC)

目次

- ◆ 認定について……………1
- ◆ 声明文……………2

印刷 城南印刷工業(株) 03-3752-3391

発行所 認定特定非営利活動法人
日本胃がん予知・診断・治療研究機構
〒108-0072
東京都港区白金1丁目17番2号
白金タワーテラス棟 609号室
電話 03-3448-1077
FAX 03-3448-1078
E-mail: info@gastro-health-now.org
http://www.gastro-health-now.org

2013.6.15
号外

認定 NPO 法人になりました！

先般、東京都知事へ「認定特定非営利活動法人としての認定を受けるための申請」を行ないましたところ、平成 25 年 5 月 29 日、「認定特定非営利活動法人として認定した旨の通知書」を受領いたしました。これもひとえに皆さま方のご支援の賜物と、心より感謝申し上げます。

当法人は、わが国の胃がん対策に寄与することを目的に活動して参りました。この度の認定を機に、さらなる活動を実施していく所存です。今後とも、多くの皆さまのご理解と温かいご支援を宜しくお願い申し上げます。なお、皆様からのご支援の寄附金につきましては、当法人が認定を受けたことにより、平成 25 年 5 月 29 日以降、税務上の取り扱いが変わります。

参考：寄附金の税務についての概要

国や特定の公共法人などに寄附をした場合には、税務上の寄附金控除の取扱いがあります。

個人が、認定 NPO 法人に寄附した場合

寄附金控除（所得控除）の適用を受けるか、寄附金特別控除（税額控除）の適用を受けるか、どちらか有利な方を選ぶことができます。

寄附金控除（所得控除）次の算式で計算します。（特定寄附金の合計額） - 2,000 円 = 寄附金控除額

認定法人寄附金特別控除（税額控除）次の算式で計算します。（認定法人に対する寄附金額の合計額） - 2,000 円 × 40% = 税額控除額

この控除を受けるためには、認定 NPO 法人の発行する書類の写しを添付した確定申告書を税務署に提出して下さい。

法人が、認定 NPO に寄附した場合には、その法人の資本金等の額、所得の金額に応じて算定した額が、損金算入の金額になります。

認定 NPO 法人に対する寄附金は、特定公益増進法人に対する寄附金となり、次のいずれか少ない金額が損金算入となります。

特定公益増進法人に対する寄附金の合計額
 $(\text{資本金等の額} \times 3.75 / 1,000 + \text{所得金額} \times 6.25 / 100) \times 1 / 2$

この控除を受けるためには、法人確定申告書により算定し、認定 NPO 法人の発行する書類の写しは会社に保存しておく必要があります。

寄附金の税務処理については、顧問税理士、税務署にご相談ください。

監修：福田税務会計事務所

今後の課題

1

新しい胃がん対策の普及啓発活動

私どもは、「胃がんリスク検診（ABC検診）」、「ピロリ菌除菌療法」、そして「ピロリ菌感染者にはピロリ菌除菌後も定期的・長期的内視鏡によるフォローアップ」の普及啓発に努めます。

2

『胃がんリスク検診（ABC検診）マニュアル』の改訂

新しい医療状況に即した『新・胃がんリスク検診（ABC検診）マニュアル』を作成します。

日本消化器がん検診学会

「ヘリコバクター・ピロリ除菌療法に関する理事会声明」を受けて

NPO 法人日本胃がん予知・診断・治療研究機構 理事会

平成25年4月に、日本消化器がん検診学会「ヘリコバクター・ピロリ除菌療法に関する理事会声明」(http://www.jsjgs.or.jp/02news/notice60.html)が出され、当NPOが推奨する、胃がん対策としてのヘリコバクター・ピロリ除菌療法、胃がんリスク検診(ABC検診)に対して否定的な見解が述べられていることに対し、当NPO理事会としての考えを発表いたします。

ヘリコバクター・ピロリ(ピロリ菌)除菌療法について

ピロリ菌感染が胃がんのリスクファクターであることは、数多くの基礎実験、臨床研究により実証されており、1994年世界保健機構(WHO)は、ヘリコバクター・ピロリを胃がんの確実発がん因子とし、B型・C型肝炎ウイルス、ヒトパピローマウイルス、タバコやアスベストと同じ、最高の危険性を示す「グループ1」に分類しました。

平成24年6月、厚生労働省は「がん対策推進基本計画」で胃がんとピロリ菌の関係をとり上げ、「ピロリ菌除菌の有用性についての検討」を取り組むべき課題としました。平成25年2月、厚生労働省保険局医療課はヘリコバクター・ピロリ感染症の診断・治療対象に「内視鏡検査において胃炎の確定診断がなされた患者」を追加保険適用としました。

ピロリ菌除菌による胃がん予防効果の評価は、これからの課題ですが、肝細胞がんの原因である肝炎ウイルスの除去治療が肝がんの発生を激減させたことと同様に、**ピロリ菌除菌が胃がん発生に抑制効果をもたらすことは十分期待されます。**

ピロリ菌除菌療法は40歳未満の若年時に行なえば、胃がん予防効果が非常に高く、他のピロリ菌感染症の一次予防も期待できます。ピロリ菌除菌療法は、費用が安く、重篤な副作用の少ない治療であり、当NPOは**ピロリ菌除菌による胃がん予防効果のメリットは大きく、デメリットは少ない**と考えます。

また、ピロリ菌除菌療法を保険診療で行なう場合、医師には患者に十分な説明を行なう責任があり、学会声明文において懸念されている「**無計画な除菌治療への誘導**」が行なわれる余地はない、と言えます。

除菌後の内視鏡検査について

ピロリ菌除菌後も胃がん発生のリスクが残りますので、除菌後も長期的・定期的内視鏡検査は必要です。

胃がんリスク検診(ABC検診)について

ABC分類は、血清ヘリコバクター・ピロリIgG抗体と、萎縮性胃炎のマーカーである血清ペプシノゲン値を組み合

わせて効率よく胃がんリスクを評価する方法で、有効性に関して国内外の報告があります。当NPOは**ABC分類を応用した「胃がんリスク検診(ABC検診)」を、X線胃がん検診の代用としてではなく、胃がん対策のファーストステップとして、公的な検診や職域検診を含むすべての検診現場に導入することを推奨**します。

学会声明文ではABC検診を「胃がん検診」と位置づけていますが、これは間違いです。ABC検診は「死亡率低減効果等、有効性のエビデンスが得られていない」と批判していますが、胃がんリスク検診(ABC検診)は胃がんそのものを発見する検診(胃がん検診)ではないので、胃がん死亡率低減効果では有効性を評価しません。これは、「肝炎ウイルス検診」を、肝がん死亡率減少効果で有効性を評価しないのと同様です。

これからの胃がん対策

胃X線検診は、わが国の胃がん対策で偉大な業績を残してきましたが、胃X線検診の有効性が評価された時代と現在では、疾病構造も医療状況も大きく異なっています。胃がんの原因がピロリ菌と特定された以上、従来の二次予防(早期発見、早期治療)から一次予防(胃がん発生の予防)に転換することは当然のことです。若年層ではピロリ菌感染率が低下しており、リスクを考慮しない一律の胃X線検診を推奨し続けることは、胃がんリスクの低い多くの受診者に放射線被曝等の不利益をもたらします。また、胃X線検診では、受診者減少・固定化、実施医療機関の減少、設備の老朽化、従事する医師等の減少も進んでおり、これからの胃がん対策の主役を担えるものではありません。

胃がんリスク検診(ABC検診)によるマスキリーニングでピロリ菌感染者(ピロリ菌感染胃炎患者)を囲い込み、その後は保険診療で定期的・長期的に内視鏡検査を行い、胃がんの早期発見に努め、ピロリ菌感染者に除菌療法を実施することで、将来の胃がん死亡者数の激減が期待できます。また、医療資源有効活用の点からも、合理的な胃がん対策であると考えます。われわれの試算では、従来の胃がん検診から、胃がんリスク検診(ABC検診)をファーストステップとする胃がん対策へシフトすることで、単年度133億円、5年継続で1865億円の経費削減が見込まれます。

当NPOは、ピロリ菌感染が胃がんの主因であると判明した今日、胃がん対策は「**胃がんになってから見つける**」時代から、「**胃がんを予知して予防した上、早期発見を目指す**」時代が到来したことを強く国民に訴え、今後とも「**胃がんリスク検診(ABC検診)**」、「**ピロリ菌除菌療法**」、そして「**ピロリ菌感染者にはピロリ菌除菌後も定期的・長期的内視鏡によるフォローアップ**」の普及啓発に努めます。
以上

あとがき



わが国の伝統芸能の愛好家が減少しているのはさびしい限りですが、文楽や歌舞伎の手法は、現代の映画やドラマに脈々と受け継がれています。胃X線検査も日本独自の手法で、消化器病学の発展において重大な役割を果たしてきました。現在の内視鏡診断学は、胃X線診断学の上に成り立っています。偉大な胃X線検査の歴史を、胃がんリスク検診(ABC検診)とピロリ菌除菌、そして内視鏡検査が引き継いでいく、当NPOは、認定NPOとしてその架け橋となるべく活動して参ります。引き続きご支援よろしく申し上げます。(三木)